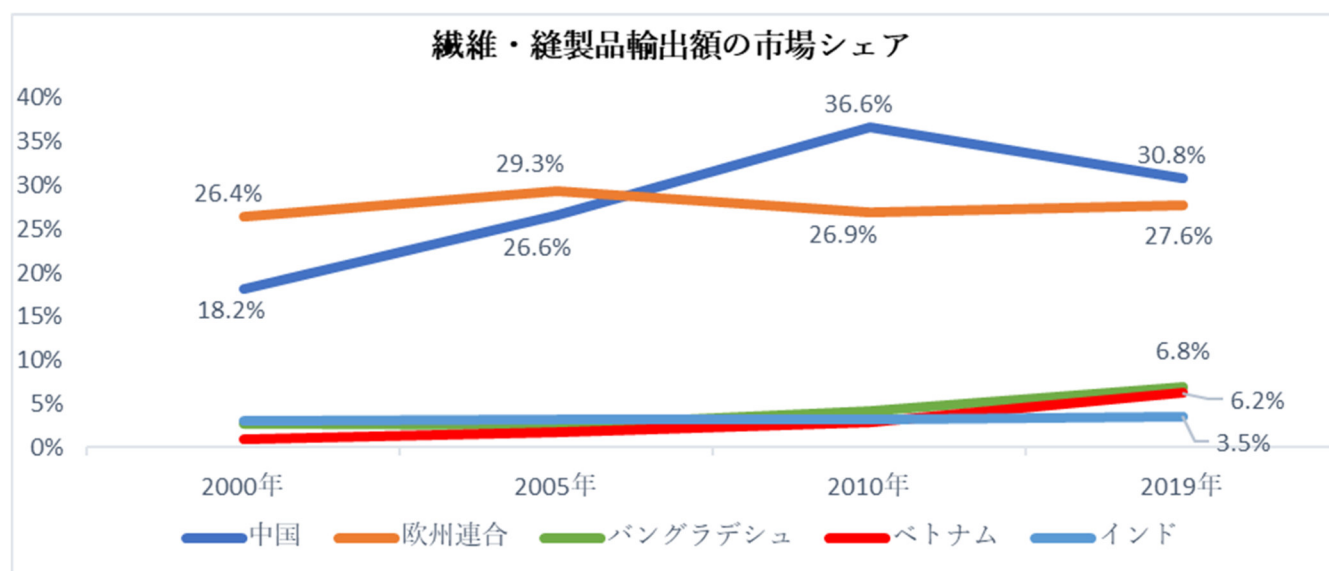


2020年9月1日

## ベトナムの繊維・縫製品の輸出が世界第2位に！

世界貿易機関（WTO）によると、2019年に中国は市場シェア30.8%で世界最大の繊維・縫製品輸出国でした。第2位はシェア6.8%のバングラデシュ、ベトナムはシェア6.2%で第3位でした（欧州連合を除く）。過去10年間、バングラデシュとベトナムの輸出向け繊維・縫製品は同等の競争力があるとされ、両国の市場シェアもほぼ同程度で推移してきました。激化する昨今の米中貿易摩擦という状況下において、ベトナムとバングラデシュはむしろ利益を享受し市場シェアを増大する国であると考えられます。



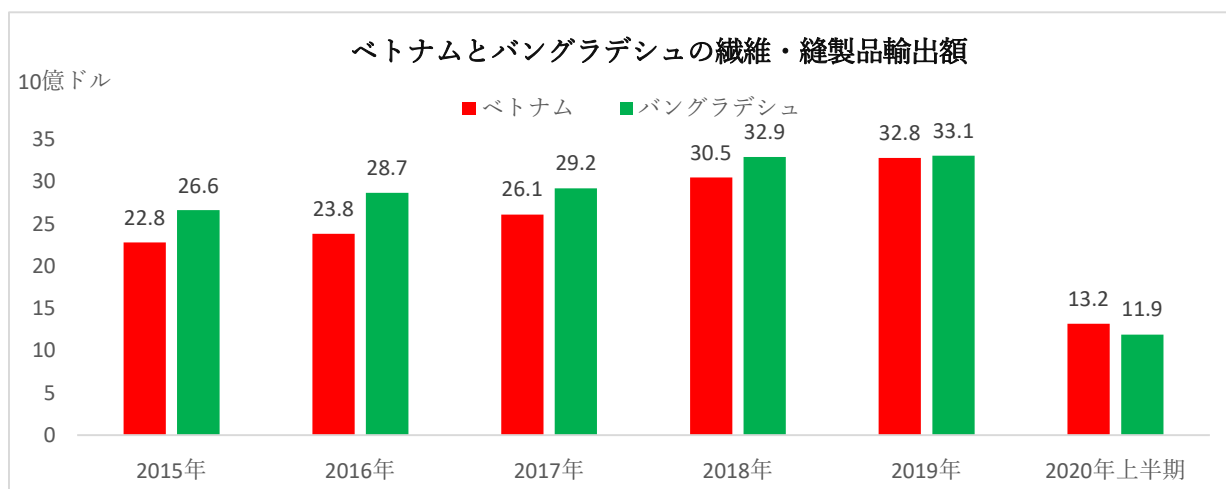
出所：世界貿易機関

2020年1～6月期、新型コロナウイルス蔓延の影響を受け輸出額は急減したものの、ベトナムの繊維・縫製品の輸出額はバングラデシュを抜き、中国に次ぐ世界第2位に浮上しました。1～6月期、バングラデシュの繊維・縫製品輸出額が前年同期比30%減の119億ドルであった（バングラデシュ輸出促進局）一方で、ベトナムの輸出額は13%減の132億ドルにとどまりました（ベトナム税関総局）。

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

ベトナム通信 ～当社グループ現地スタッフによる最新情報～

バングラデシュ政策研究所事務局長は、「ベトナムが繊維・縫製品輸出額でバングラデシュを上回った理由はたくさんありますが、その1つはベトナムが製品を積極的に多様化させていることです。」と語りました。また、バングラデシュ衣料品製造・輸出業者協会(BGMEA)のモハマト・ハテム副会長は、輸出が落ち込んだ理由について、3～5月に新型コロナ感染拡大の影響でサプライチェーンと生産活動に大きな問題が生じたと説明しています。一方、ベトナムではこの期間、新型コロナの効果的な封じ込めに成功したため、生産活動への影響が限定的でした。バングラデシュの繊維・縫製品輸出額（月別）は、3月が前年同月比20.1%減少し、4月が同85.2%減と過去最大の落ち込みを記録し5月も同62.1%減となりました。ベトナムは、3月が前年同期比7.7%減少し4～5月もそれぞれ3割強落ち込みましたが回復傾向にあります。



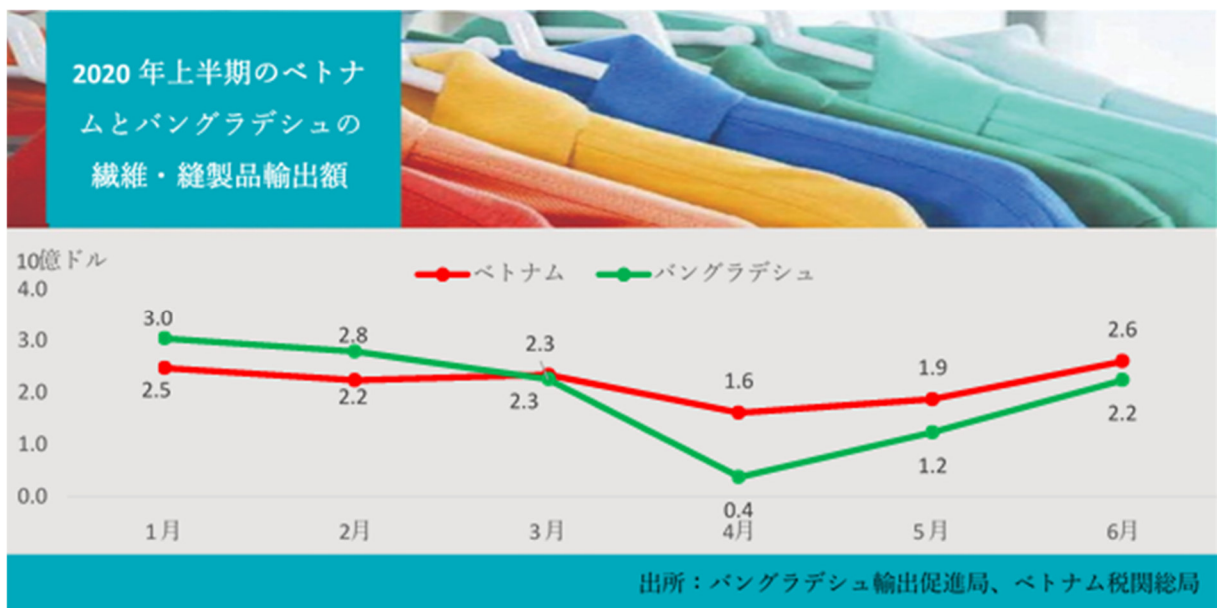
出所：バングラデシュ輸出促進局、ベトナム税関総局

ベトナム繊維協会(Vitas)は、「繊維・縫製産業の世界的な停滞に関して、2020年上期にバングラデシュとインドの輸出額は前年同期比20%以上の減少を記録しましたが、ベトナムは12～14%の減少にとどまり依然として先行きが明るいですが、新型コロナウイルスの状況が世界の繊維および衣料品の取引に悪影響を及ぼしているのも事実で、ベトナムの繊維・縫製

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

ベトナム通信 ～当社グループ現地スタッフによる最新情報～

産業はまだ楽観視はできないと考えています。2020年第3四半期と第4四半期、世界的には感染は依然として拡大傾向にあり、企業活動が限定的で消費者需要も低迷が予想されるため、ベトナムの繊維製品と衣料産業にとって困難な時期になると見えています。」との見解を明らかにしました。



明るい面を挙げれば、EU・ベトナム自由貿易協定（EVFTA）が8月1日に発効したため、繊維および衣料産業はこの協定の恩恵を受ける産業と見なされている点です。今こそベトナムの繊維および衣料産業は、コロナが収束する時に備えEU市場からのビジネスチャンスをつかむために周到な準備をする時ではないでしょうか。

【写真提供：JVRC】

<http://www.capital-am.co.jp>

以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。